

第7章 ソロになる

— 一本、きれいに一本 —

ショービジネスの世界の気まぐれは、奇妙なものです。1950年代後半、そして60年代の初めには、私は次からつぎと、文字通り数百ものTVシリーズにゲスト出演をしていました—カウボーイ、医者、弁護士、兵士、警官、悪党、政治家など—やっていないものは無いくらいです。仕事は楽しく、収入も良かったのです。そしてほとんどの若い俳優たちのように、私もなにかヒットシリーズでの役が、私の一流のスターへの踏み台になるのではないかと願っていました。それどころか、ある大きな失敗作での仕事が、私のキャリア — そして、私の人生を大きく変えることになりました。

その話の要となるのが、ノーマン・フェルトンというTVプロデューサーです、たぶん、よほど熱心なショービジネスの歴史好きな人でなければ、覚えていないかもしれません、しかし彼は、彼独自の方法で、このTV産業の初期の時代を形づくった人です。ノーマンはアレナプロダクションの名のもとに、MGMTV番組（イレブンスアワー、ドクターキルディア）を制作しており、私はその番組にかなり個性的な役で2度ゲスト出演していました：ロバート・F・ケネディをモデルにした熱血検事と、妻（インガー・スティーブンス）の産後の精神障害に困惑する夫の役です。

1963年、ノーマンは私に彼がプロデューサーであるジーン・ロッデンベリーのTVシリーズ「ルーテナント」に、レギュラー共演者で出演しないかと依頼してきました。南カルフォルニアのキャンプ・ペンデルトンで大規模に撮影され、ゲーリー・ロックウッドを主役にした海兵隊での生活を扱った番組です。

私はノーマンが私の空いている時に使うという条件で承諾しました。つまり、映画や他のTVにゲスト出演するのは自由であるという意味です。

「ルーテナント」は迅速かつ痛みもなく終わりました。ニールセンランキンがひどく悪く、1963-64シーズンの1シーズンで番組は終了しました。その結果に誰も傷つくことはありませんでした。ゲーリー・ロックウッドはスタンレイ・キューブリックの「2001」：宇宙の旅、にカー・デュリーと共演し（アंकルから来た女の美しいステファニー・パワーズと結婚しました）。ジーン・ロッデンベリーは「スター・トレック」を創り出し、その権利を保有し鼻持ちならいくら裕福になりました。私とえば—

まあ、ノーマン・フェルトンは「ルーテナント」が上手く行かなかったことに対して、私に申し訳なく思っている、と言い、私が喜ぶであろう何かを、考えるからと約束しました。

そして正に、本当にそうしたのです。

キャンプ・ペンデルトンで、「ルーテナント」の最後のエピソードの一つを撮影している最中、ある木曜日の午後6時頃に、ノーマンから電話をもらいました。「MGMの正面ゲートに脚本を君に、と託しておくからね」とノーマンが言いました。「明日の朝私の事務所に来て、君の考えを聞かせてくれたまえ。」

「何と言うタイトルですか？」と私は尋ねました。

「ソロ。それが主役の名前だよ—君の役のね」

その日の撮影は長引き、ゲーリー・ロックウッドと私が脚本を取りにスタジオに着いたのは、夜の11時頃でした。しかし、まだ若くて独身であった私たちは、帰宅前にサンセット大通に繰り出すことにしました。ゲーリーと私はメロディルームで2人女の子を選び、彼のローレルキャニオンの家へ連れて行きました、そして私は、ハリウッドパインハーストにあるスイス風の自分の借家に、朝の四時まで帰りませんでした。

私はノーマンの脚本をチラッと眺め、「ほっとけ」と呟き、ベッドに潜り込んだのです。ノーマンのMGMカルバーシティの事務所には、9時に行くことになっていました。

その金曜日の朝が、僅かな睡眠でなんとかしなければならぬ初めての経験ではありませんでした。（前に言ったように、私は若くて独身でしたから）。カルバーシティまでの道のりがちょうど30分であることを知っていたので、私は8時に起き、すばやくシャワーを浴び、「ソロ」の脚本を車の

座席に放り込みました。ハリウッドとカルバーシティ間の赤信号で止まるたびに、数ページずつ読みました。脚本すべて読み終わることが出来るほどの十分な赤信号はありませんでしたが、私の二日酔いの状態でも大体の要点はわかりました。—ジェームズボンドのテレビ版です。

そのころ、私はジェームズボンド映画を、まだ見てさえもいませんでした。もちろん、ショーン・コネリーが最初の2つの映画「ドクターノオ」と「ロシアから愛をこめて」で国際的な成功を楽しんでいて、イアン・フレミングのスパイ小説が評判で、ケネディ大統領の愛読書である事くらいは知っていました。その程度の情報で、求められていた答えをごまかすのには十分でした。

私はMGMにあるサルバゲビルのノーマンの事務所に素早く案内されました。

「それでどう思う？」ノーマンが尋ねました。

お酒と睡眠不足によるぼーっとした頭でも、「ジェームズ・ボンドのお茶の間版ですね。彼の得意なベッドルームではなくて。」と答える知恵がまだありました。

ノーマンは心得顔で頷き、もったいぶった笑みを浮かべ、「この役に興味あるかね？」と言いました。

私は「非公式ですがイエスです。」と答えました。

彼は、大御所の雰囲気に戻り、机の上のインターコムに叫びました。「シャーリー、ニューヨークにつないで！」。彼の電話がほとんどすぐに鳴りました。「ヴォーンがやりたいそうだ。」と電話に告げ、そして切ると私に振り向き、「君の代理人に私に電話するように言ってくれ。」と言いました。

今日一時間のTVシリーズの主演として決まるまでは、5、6人のアイビリーグMBAの人たち—最終利益以外ショービジネスについては何も知らない、しかし、なんとか俳優のキャリアを作り出す、あるいは破壊する力のある青二才たちの前でのオーディション（コールドリーディング）から始まって、何週間も何ヶ月もかかることがあります。しかし、1963年には、

仕事は対一で行われたのです。私の人生を永遠に変える決定が、西海岸と東海岸の10秒の会話で行われたのです。

自分の車に乗るのに駐車場に戻ると、ゲートの警備員一信じられないでしょうが、ケン・ハリウッドと言う名前でしたーが私に聞きました「何だった？」。

私は「えーとね、ケン、君はテレビ版のジェームズ・ボンドに、今会っているんだよ。。。多分ね」と答えました。

その後、私はサンセット大通を、新しいブラックチェリーのリンカンコンヴァーティブルで飛ばしていると、魅惑的な金髪の女性が、私の左をフォードのコンバーティブルで走り抜けました。そしてその車の後のバンパーには「戦わないで愛して」と読めるステッカーが貼ってありました。

次の交差点で、私は同時に走り出し、「何時が良い？」と言いました。彼女は「何を言っているの？」と聞き返し、私が「君のバンパーのステッカーさ」と言うと、からかうように「今はどう？」と返して来ました。

「今日はこれから約束があるんだ」それは本当だったのですが、彼女は笑いながら「だから私たちは戦うのね」と言って加速して走り去りました。

私はその朝のことを忘れたことはありません。それは今までの生活に終止符を打ち、私の30歳のショウビジネスの人生における、ワクワクする次なる章の新しい段落を始めることとなったのです。

私のそのころの代理人は、マックス・アーナウでした。マックスは「ソロ」というTVドラマのパイロット版の交渉をしてくれました。ドン・メドフォード（彼のことは知りませんでした。）が監督をすることになっていました。パイロットはカラーで2時間になる予定で、もしNBCが1964-65年シーズンに使わないとしても、劇場用として公開出来ることを期待していました。

私は「The Man from U.N.C.L.E.」となった背景については、後で詳しく知りました。1962年、ジェームズ・ボンド小説の作家、イアン・フレミング自身がある時期、ニューヨークでノーマンと秘密諜報員のテレビシリーズのアイデアを練っていました。フレミング構想にあった人物のほとんど

は、「U.N.C.L.E.」には使われませんでした」—例えば、彼はヒーローをカナダ人とし、彼に話しかける鳥をペットにし、百科事典のような知識を持ち、事件解決を助ける図書司書を友人に持っていました。これらの構想は、全くシリーズには取り上げられませんでした。

心臓の病気とボンド映画の急成長によって支障がでて、フレミングは結局計画からおり、如何なる権利もノーマンに譲るとサインをしました。しかし、「ナポレオン・ソロ」という名前の使用は、MGM と、ボンド映画を制作していたイーオンプロダクションとの間に、法的な問題をほぼ引き起こしそうになりました。

フレミングがその名前を考えたのですが、明らかに「ゴールドフィンガー」に似たような名前（ゴールドフィンガーがフォートノックスを襲うのを助けるアメリカ人暴力団員が単にミスターソロと呼ばれていました）を使っていたことを忘れていたのです。MGM とイーオンは TV シリーズが「ソロ」というタイトルを変えることで合意しました。斯くして「The Man from U.N.C.L.E.」が誕生しました。

実際のところ、ノーマンは後に、ジェームズ・ボンドの人気だけが「The Man from U.N.C.L.E.」を制作しようと思いついた理由ではないと語っています。この番組の構想を練っているときに、ノーマンはアルフレッド・ヒッチコックのスリラーの影響も受けました、特に1959年のケリー・グラント主演の「北北西に進路をとれ」です。実のところ、作家のサム・ロルフが、ノーマンに依頼されて番組の詳しい内容を書いた時には、彼は主役は「ケリー・グラント」タイプであること—黒髪、壮健、上品、ウィットに富み、お洒落であること—を示唆していたのです。

多分彼らは、私がそれに当てはまると考えたのでしょう。そして別の若手俳優、ロバート・カルプもノーマンによって、かなり真剣に考慮されたのです。しかし、ナポレオン・ソロはトップスターへの私の切符となりました。ボブは1年後—「アイスパイ」という TV シリーズでビル・コスビーとの共演でケリー・ロビンソン役を得ました。

私がこの役に決まると、この大きなスタジオと TV ネットワークの作業は一気に加速を始めました。ミスター・アリソン、ソロが働く架空の U.N.C.L.E. という組織のボス、は多くの TV に出演している、しわがれ声の性格俳優、ウィル・カルーバが演じることとなりました。（すべての TV の熱狂的なファンが知っているように、それは United Network Command

for Law and Enforcement.の略です。)そしてパイロット版にちょっとだけ登場するのが、私もジョージ・スティーブンス監督の「偉大な生涯の物語」でユダ・イスカリオットを演じたので知っていた、スコットランド出身のイギリス人の若手俳優でした。彼の名前はディビッド・マッカラムでした。元々の脚本では彼の役は「武器を持ったスラブ人」と書かれていました。もちろん、これがロシア人諜報部員イリヤ・クリヤキンに変わって行っただけです。そのブロンドのビートルズのような前髪とほっそりとした格好良いルックスで、ディビッドはスターダムに駆け上がります、とくに世界中の10代前半の女の子たちの間で。

パイロット版は、1963年11月20日の金曜日から、撮影が開始される予定でした、私の31歳の誕生日の2日前です。そしてその10年で忘れられない瞬間の、2日前でもありました—テキサス、ダラスでのジョン・F・ケネディ大統領の暗殺事件。

その金曜日の午後は、キャストにも撮影班にとっても、一様に奇妙で辛いものでした。私たちはロサンゼルスから1時間ほど南の、リバーブラザーズ工場で撮影していました。パイロットの筋書きは一他のはほとんどのアングルと同じようにでっちあげの事件—墮落した化学薬品会社の経営責任が、架空のアフリカの国の外交団をめぐって、国際的な犯罪組織スラッシュのスパイ行為と、暗殺やその他の陰謀に巻き込まれるという筋書きでした。リバーブラザーズの工場はバルカンケミカルカンパニー (MGMの映画として世界中で公開された最終版では、グローバルカンパニーと名づけられました。)として撮影するために使われました。巨大な鉄塔、サイロ、通気孔、キャットウォーク、などは通常の待ち伏せ、銃撃戦、落下、そして爆発とともにクライマックスの逃走シーンの背景として、正にうってつけでした。

私の良き友人ジョージ・ルーア、この全シリーズを通しての共同プロデューサーで、その後、私の母校のUSC (南カルフォルニア大学)の映画部門の講師になるのですが、その彼が、石鹼工場で夕暮れから夜明けまで撮影ができるかどうかを見積もるために、雇われていました。彼は最新のイーストマンコダックカラーフィルムと照明を使えば、可能であると報告しました。MGMのカメラ部門は、それでは上手くいかないだろうと言いました。でも上手く行ったんです。私はそこで見ていました。

そのMGM/NBCパイロットで主役を演じる女優には、プロデューサーはジャニス・ルールに決めていました。彼女は当時、私の友人のベン・ギャ

ザラと結婚していました。全く偶然なことだったのですが、ジャンスの契約には、彼女を左側から撮影することが条件にありました。

私が兵役から戻ってからの初期の作品以来、編集用の下見フィルムを見た後、出来る限り左側から撮影するように依頼してきました、ジャンスと私だけのシーンが沢山あるので、私が新たに得た力を使い、ジャンスはこの仕事はもらえませんでした。

私はその中西部の退屈な日常からスパイの世界、格好いい車、美しい宝石と衣装、エキゾチックな場所に、私と一緒に投げ出される主役の女性に、パトリア・クローリーを提案しました。

パットは「ルーテナント」で私の妻役を演じたことがあり、私の知人でビバリーヒルズの有名な弁護士エド・フックストレイトンと結婚していましたが、あまり幸せとは言えませんでした。ひょっとしたら口説いていたかもしれません。彼女の都合が合い、一緒にとっても楽しくエキサイティングな仕事ことができました。

撮影に入って3日目、私の31歳の誕生日に、世界は第三十五代アメリカ大統領ジョン・F・ケネディの暗殺に呆然となりました。

私は自分の車でラジオのCBSの「アーサー・ゴッドフリーショー」を聴きながら、リバーブラザースのロケに向かっていました。その時、西海岸時間午前10時30分、テキサス、ダラスで大統領の車に3発の銃弾が発砲されたというニュースに中断されました。私は友人のビル・ティナンの家に迎えに立ち寄りました。彼はその番組の会話監督としての仕事を始めていました。

私たちは、彼のサンセット大通のすぐ南のアパートで、座ってその衝撃的なニュースを聞いていました。銃弾が発砲された最初のニュースから一時間半後、ウォルター・クロンカイトがアメリカに、そして世界にJFKが亡くなった事を告げました。ワシントンD.C.そして米国司法長官のロバート・F・ケネディが彼のお兄さんの死を知らせを聞いたマクリーン、ヴァージニアでは、午後2時のことでした。

ビルが私の車を運転し、その石鹸工場まで90分の道のりを行いました。私はその道のりの事を全く覚えていません。私たちは暗くなるのを待たなくてはなりませんでしたが、11月はすぐに暗くなるのです。スケジュール通りにいくつかのシーンを撮影した後、監督のドン・メドフォードとパット・

クローリーそして新たに創り出されたばかりのソロは、自分たちの名前すら覚えていられない状態なので、撮影を中断することに同意しました。

私たちは皆、考えられない出来事を見るために、白黒テレビの待っている家に帰りました：リンドン・B・ジョンソンが大統領機上で、奥さんのレディー・バードをそばにして、大統領として宣誓する姿、ジャクリン・ケネディがまだ夫の血が飛び散ったままのピンクのスーツをきている姿：11月24日日曜日の朝、暗殺の容疑者リー・ハーベイ・オズワルドが、名も知らぬバーのオーナー、ジャック・ルビーによって殺害され：ワシントンでの沈黙の憂鬱な葬儀：2歳のジョン・ジョン・ケネディが彼のお父さんの柩が前を通った時に敬礼をする姿；そして最後にアーリントン墓地での若き大統領のお墓に永遠の炎が灯される光景。

アングルのパイロットの撮影にはまだ数週間残っていました。大統領の死による私のふさぎこみが、私のテレビスターとしての最初の姿、格好良くてロマンチックなナポレオン・ソロに影響を与えてしまうのではないかと、とても心配でした。その影響を与えはしなかったとは思いますが、しかし客観的な評価ができる状態ではたぶんなかったですし、制作に関わった他の人たちも、私のが的を外れていると言うつもりはなかったのでしょうか。ですから私はひたすら働き続け、それが最善であることを願いました。

11月26日、火曜日に撮影を再開し、22日の金曜日に予定していたシーン、私とパトリシアが蒸気の激しくあがるパイプに吊るされるシーンを撮りました。

その2日後は感謝祭で、ジョーン・オブライエン、1961年母の死から定期的に会っていたのですが、彼女が伝統的な夕食を作ってくれと言ってくれました。彼女はそれに私の友人たちを、特にアイルランド系のジョン・ハケットとビル・ティナンを、彼女も知っているので招待したらと提案しました。その日はお酒を飲みながら、そのころでも良く知られていた JFK のロマンス話などを含む、殺害された大統領の足跡をたどる即席の会となりました。

デイビッド・マッカラムには、パイロットでの彼の2回の登場シーンを撮影するまで、会ったことはありませんでした。私は、彼のジョン・ヒューストン監督の「フロイド」を見ていました、その映画では彼はとても美しく映っていて、すばらしい演技をしていました、そして以前にも述べたように、

彼はジョージ・スティーブンス制作の「偉大な生涯の物語」でジユダ役を得ていました、それはハリウッドにいるどの若い役者も欲しかった役でした。

一方、私のこのショービジネスでの次のレベルへの動き（共演者からスター）は、すでに私の人生に影響を及ぼし始めていました。アングルのパイロット映画の大きな出演料で、初めて自分の家を購入しました、サンフェルナンドバレーを見下ろすマルホランドドライブにある一軒家で、そこをトルマック（Tolemac）と命名した（逆に書いてみてください—ちょっとしたジョークです。） *訳者注：camelot は伝説のアーサー王のお城

私は11月30日にトルマックへ引越しました。あまり移動させる物もありませんでした：引越しが完了した家には、机と椅子、沢山の本、真新しいキングサイズのベッド、そして、半分空の低カロリーサラダドレッシングが冷蔵庫に入っているだけでした。それは一日中撮影したあとに倒れ込むのにも、たまに夜を共に過ごすのに若い女性を誘うのにも十分な調度品でした。（私は異性については、いつも成功の分け前を授かっていました。アングルのお陰で、私の評価はまさにロケットのように急上昇していました。）

パイロットは「バルカン事件」と名づけられました。もしあなたが今日それを見たなら（なぜ見なければならぬのか想像できませんが）、1960年代の古びた車が映っているでしょう。今日のテレビドラマや映画に比べれば、スローペースで、特殊効果は初歩的、筋書きは単純です。パイロットはさらに信じ難い筋書きの構想を使いました—普通の家庭の主婦（パトリシア・クローリーが演じた）がスパイの真似ごとで巻き込まれ、ソロが悪を倒すのを助け、郊外の平和な暮らしにまたもどるというものです。この戦術は（もともとはヒッチコックの「北北西に進路をとれ」に触発されたもので、それはマディソンアベニューの広告会社社長ケーリー・グラントが、スパイに間違われたというものです。）、毎週視聴者に有名な異なる人物を登場させるために、番組は毎週その手法を取る予定でしたが、ありがたいことに、2、3のエピソードのあとに取りやめました。

しかし、「バルカン事件」が今日どんなに古臭く、ださくて見えても、当時は上手く行ったのです。NBCはロサンゼルス周辺の小さな劇場でパイロットを試し、番組についてのアンケートや、さらに観客の指に装置（嘘発見器みたいなもの）をつけて、脈拍や皮膚の反応でモニターしたのです。反応は良かったのです。34パーセントの人が「非常に良い」と評価しました、特に女性が一番高い興味を示しました。調査のうち、まあまあの29パーセン

トが、プライムタイムの競合相手となるであろう、「レッド・スケルトンアワー」と「マックホールズネイビー」よりもこの番組をみるであろうと答え、59%の人が「アングル」は彼らの好きな番組になるであろうと答えました。二つの確立したヒット番組に対抗する未知の番組としては、上々でした。
*RV 注（私はこのことについては、アイオワの若きファンジョン・ヘイトランドが「アングル」ブックを1987年に発刊するまで知りませんでした。）

NBCはアングルにゴーサインを出し、私たちは1964年6月にシリーズの撮影を開始しました。

しかし、その前にキャストにおける大きな変更が行われました。ハリウッドの奇妙な予測のつかない人生を象徴するかのようなもう一つの話です。

パイロットが完成して間もなく、ノーマン・フェルトンはNBCの重役から電話を受けました。その重役はノーマンに言うには、「パイロットはよかったよ。だけど、あの俳優は辞めさせろ。なんて名前だったかな？ああ、思い出せないな、なんだかKで始まる奴だよ」

ノーマンはしばらく考え、「カルーバの事？」とアングルのボス、ミスターアリスン役のウィル・カルーバをさして尋ねました。

「ああ、そいつだよ。あいつは嫌だ、他の俳優を探せ」

フェルトンは律儀に可哀相なウィルをお払い箱にし、ハリウッドの本当の一流スターをキャストに加える機会を手に入れました—レオ・G・キャロル、彼は1930年代からはロンドンやニューヨークで舞台や映画に出演をしていました。レオは「北北西に進路をとれ」ではアングルのボスと異なり、ケーリー・グラントを困難に巻き込む筋書きの首謀者のFBIエージェントを演じていました。そして今、彼はウィル・カルーバの変わりにミスター・ウェイバリーと言う名で雇われることとなりました。

皮肉なことに、ウィル・カルーバは首にされる予定では全くなかったのです。NBCの重役は、本当はディビッド・マッカラムが演じていた役、クリヤキンの名を思い出そうとしていたのです。「長髪のロシア人」こそが、NBCが首にしたかった人物で、カルーバではありませんでした。

それはノーマンがそのNBCの重役に、その役に71歳のレオ・G・キャロルを雇った、と報告した時の驚きようで説明が付きまします。「ええ！その役には年寄りすぎじゃないか？」というのがもっともな反応でした。取り違えは

はっきりとしましたが、時すでに遅く、「アングル」にはディビッド・マツカラムとレオ・G・キャロル二人ともがキャストとして含まれました。

そして、それはとても良かったことでした。

第一シーズンのエピソードは、シリーズの構造を確立させました：ソロが、頻繁にイリヤを伴い、アレキサンダー・ウェーバリーに、世界のどこかで起きている問題を解決するのに送り出される。私は問題解決のために重要な役割を負う普通の人に助けられる。悪人たちは独特で、筋書きは巧妙、際立って独創的でした。第一シーズンのゲストスターは、TV視聴者のお気に入りか間もなくそうなる人たちでした：「鳩は何を告げる」の先生役ジューン・ロックハート、バーバラ・フェルドン（後のNBCのアングルパロディー、「それいけスマート」のスター）は「拾った危険」で、事務官ではなくスパイの経験をする機会を得ました。4年間通して、すべてのエピソードは「affair」（..事件）という言葉がこの1時間番組のタイトルにつけました。

アングルのエピソード一つ一つは、ある方式にそって組み立てられました。導入部分としてのオープニングシーン、極悪非道のスラッシュエージェントに待ち伏せされたし攻撃されているシーンが頻繁にありました。そして、イリヤと私が、ニューヨークの国連近くにあるごく普通の仕立て屋に入っていくのが映し出されます。大きな口ひげをつけた、イタリア人の仕立て屋がプレス機のハンドルを2回軽く押すと、店の後ろにあるアングル本部への隠れた入口が開きます。

イリヤと私が超高度技術（それは1964年では電磁テープが回転し、意味なく点滅する電球満載の壁サイズのニセのコンピューターがあったということです）の秘密基地に入ると、受付の美しい女性が、思わせぶりの視線を私たちに投げかけながら、三角形の暗号化されたIDを渡します。そして私たちのおじさんのようなパイプをくゆらすウェーバリー課長が任務を指示し、そこからが実際に番組が始まるのでした。

それに続きイリヤと私（通常最後の2、3のシーンまでは別々に行動している）が、世界中のあちこちで悪人と勇敢に戦うシーンが描かれていました。私のアングル時代に、私は人々から、撮影で世界中に行けて良いねと言われました。私たちの世界中すべてのシーンが、私たちの控え室から歩いて5分のMGMスタジオで撮影されているとは想像もつかなかったのです。第二撮影所には、世界の主要都市—ロンドン、パリ、ローマ、ブラハなど—の外観の巨大セットがあり、第三撮影所にはジャングル（ジョニー・ワイズミュ

ラーの「ターザンが」撮影された) が作られ、湖 (ミュージカル「ショーボート」のミシシッピー川のシーンが撮影された) や、他の多くの映画の背景がありました。私たちは、アンクルをもっともらしく国際的に見えるように、それらを最大限に活用したのですが、すべて偽物だったのです。

番組には他にも共通の筋書きがありました。大抵は最後のシーンにおける追跡のような種類のものでした。デイビッド (イリヤのことですが) と私が順番で運転をしました、一車、時にはモーターバイクやヘリコプターまでも。そして第2幕か3幕くらいで、私たちはペン型の電話に向い「オープンチャンネル D」と魔法の言葉を吹き、話をするのです。小道具と特殊効果は信じられないくらい単純なものでした、特に今日の基準で考えると。ボブ・マードック、私たちの小道具責任者は、何千ドルもしそうに見える高性能の道具をわずか2、3ドルで作り出す才能の持ち主でした。銀紙で覆われたタバコの箱は3メートル範囲のシアン化合物爆弾になりました。パイプに蒸気を送り込み急いで作ったパイプは、ごく普通のヘリコプターをロケット発射装置つきヘリコプターに変えました。

市場の意見は実際のところ、私たちのいくつかの小道具のデザインにも影響を及ぼしました。アイディアルトイはもともとのアンクルガンのデザイン、ドイツのモーゼルを特別に改造したもの、を嫌いました。彼ら独自のデザインを持ってきました、そしてそれはクリスマスシーズンのおもちゃ屋に巨大な利益をもたらしたと理解しています。

1964年秋の火曜の夜にデビューしたときには、アンクルはすぐにはヒットしませんでした。最初のいくつかのエピソードは、ニールセン調査ではほぼ底のランクでした。(パイロットを観た人たちは言ったことと異なり、レッドスケルトンやアーネスト・ボーグナインにチャンネルを合わせ続けたのです。) 今日の視聴率争いが激戦化されている環境であれば、この番組はすぐにキャンセルされていたでしょう。しかし、私たちは自分たちの視聴者を見つけるのに3ヶ月与えられていました。

もともとの時間帯では、強力な CBS は「レッドスケルトンショー」を放送しており、「アンクル」はニールセンで 8.3、すなわちわずか 13% の視聴者が見ているに過ぎませんでした。1964-65年シーズンでは「スケルトン」はアメリカのテレビ視聴者に見られるトップテンの6位に位置していました。皮肉にも1965-66年シーズン、「アンクル」がどん底から上がった時、私は、「レッドスケルトン」に2度ゲスト出演を頼まれました、

一度はジョイス・ジェイムソンと一緒にでした。1964年の終わりごろには、私たちは50位まで上がってきました。その時点では、NBCの1965-66年シーズンの計画には入っていませんでした。1964年12月、番組は月曜日夜八時に移動しました。その新しい時間帯でも14.1ポイントにしかならず、そしてそれはキャンセルを意味していました。

しかし、10月、11月の間に大学生たちがこの番組を見つけ始めました。彼らは寮のラウンジ、や大学周辺のバーやアパートで見られるようになりました。残念なことに、これらの場所にはニールセン集計機がなかったのです。しかし、彼らがクリスマス休暇で家に帰り、家のテレビで「アंकル」を見始め、突然番組の視聴率が20位に上がりました。雑誌「ライフ」の批評家スコット・リービットが、この口コミによる宣伝が番組をキャンセルから救ったと賞賛しました。これらの人々が、次々と友人たちにこの番組を見るように言い、ランクが上がり始めたのです。

第一シーズンの最後のエピソードの放送から夏の再放送がされている間が、「アंकル」にとってとても重要な時期でした。この再放送が1965年10月18日、「アंकル」が「ボナンザ」、「デック・バンダイク・ショー」、「スマザーズ・ブラザーズ・ショー」「奥様は魔女」を追い出し、ニールセンランキング全国一位となる推進力となったのです。番組はニールセン50位から13位まで上がり、24%の視聴率、第一シーズンはじめの視聴者の2倍をえました—当時のTVの歴史において未曾有の上昇でした。

この波は、私の良き友の故チャック・ペインターという番組広報担当、によって演出された「ナポレオンとイリヤ」の番組宣伝ツアーによって、さらに促進されました。秋のころ、私たち、ペインター、ディビッドと私の3人は毎週金曜日にMGMを出発し、ニールセン対象の3都市を2日間で訪問し、日曜の夜ニューヨークに集まりLA行きの最終日便に乗り込み、翌月曜日の朝7時45分から働き始めました。このツアーが始まると、番組は17.4ポイントを集めました。ニューオリンズ、ダラス、セントルイス、ヒューストン、サンフランシスコ、ミルウォーキー、シカゴ、クリーブランド—全部で24都市、2000マイルの距離—を訪問した週末の後、番組視聴率は20まで上昇しました、生き残りには効果てきめんでした。

次に全国誌がこの番組についての記事を書き始めました。タイム、ニューズウィーク、サタデーイブニングポスト、TVガイド—それぞれがファン

の反応について記事にしました、番組の信奉者を「数百万人の熱狂的な信仰者」と称して。

チャック・ペイターはその後ローマに移り、イタリア語に堪能になり、ヨーロッパでの映画の宣伝をすることになります。彼の後任にMGMの広報、ジョン・ロスウェルがなりました。ジョンがやって来るころには、TV番組と映画は全アジア、ヨーロッパ、フィリピン、オーストラリアなどで放映されるようになっていました。「消された相棒」、TVの「ブリッジオブライオン事件」パート、1と2をツギハギした2時間ものの映画は、ロンドンのレスタースクエアの、リッツ映画劇場の売上新記録を作りました。

私たちの視聴率争いの秘密兵器は、ディビッド・マッカラムでした。オリジナルパイロット版での小さな役（5分も登場していませんでした）にも関わらず、アメリカの10-12才の女の子たちが注目したのです。彼らはMGMとNBCにブロンドのモップ型ヘアのロシア人エージェントが大好きと、手紙を書き始めました。彼はハンサムで、近寄りがたく、少しミステリアスな格好い人物の典型であると。（ディビッドが、全ての年齢、男女どちらもが好む素晴らしい魅力のある役者であることを傷つけるものではありませんでした）

「アンクル」のプロデューサーたちは、馬鹿ではありませんでした。彼等はディビッドの役割を、脚本中に、目立つところを大きく加えることによって広げ、結果的に私と同等の共演者としました。

捏造した論争が好きな彼ら、タブロイド新聞は、私とディビッドを名声とファンにおける苦々しい争いという構図に押し込めたがりました。実際のところは、私たちはとても仲良くやっていたのです。ディビッドは私にとって代わるように見えないように、私と競っているように見られないように、非常に気を使っていました。例えば、私たち二人が宣伝のためにポーズをとるときには、ディビッドは必ず私を彼の右側に立たせてくれました、それは伝統的に上位の立場でした、彼が私と完全な同等な立場になっけていても、です。それがでしゃばらない性格のディビッドの典型的な思慮深さでした。私たちは今日でもとても良い友人です。

レオ・G・キャロルは「アンクル」の真の品格でした。彼は私が今まで会った中でもっとも優しく、愛すべき人でした。彼は、私にスタジオが考えているよりもずっと年をとっているのだと言いました。そして実際のところ、番組の中で空手を使ったアクションシーンを2、3回とりましたが、むしろ

ちょっと弱々しくはあったのです。可哀想なレオはカテーテルを付けていて、プラスチックバッグをズボンの中に入れていました。ある日、私たちが第二撮影所で撮影している時、ディビッドは、レオが一番近いトイレの方向を聞いているのを耳にしました。レオが歩き始めたので、ディビッドが「レオ、歩く必要はないですよ。車を用意しますから。」（そこにはいつも撮影所を行き来する小さなバンがいつもあったのです。）レオはただ歩き続け、肩ごしに言いました「大丈夫だよ。そこに着くまでには終わっているから」。それが、レオの皮肉な、でしゃばらないユーモアの典型でした。撮影のないときの彼のお気に入りの場所は、ハリウッド図書館でした。彼は良く私にため息まじりで言ったものです「まだ読んでいない古典が沢山あるんだよ。」と。ヒッチコックが、レオを彼と一緒に仕事をした中で最も優秀な映画俳優であると評してします。

1965年秋から冬休みの後にかけて、ナポレオンとイリヤが公に登場することが、大きな群衆を集め始めました。ディビッドはティニーボッパー（ロックスターを追いかける10代の女の子たち）に攻撃されました：ルイジアナのバトンルーージュ、イリノイのスプリングフィールド、テキサスのダラス、ニューヨークのメーシー：そしてその他の都市でもです。

私が最初に何かが起きていると気づいたのは、1965年11月、ニューヨークのANTA劇場に「ロイヤルハント・オブ・ザ・サン」を見に行った時でした。手に切符を持って通路を降りて行くと、拍手がパラパラと聞こえました。私が自分の席の列に到達する頃には拍手が増えていました。私は周りを見渡しました、すると驚いたことに、人々が熱狂的に私を指して拍手をしていることに気が付きました。

私が席に座ることには、舞台に近い席の半分の人々が立ち上がり、拍手をし、ロバート・ヴォーン、ナポレオン・ソロ、アングルについて話しているかのようでした。

その時が私たちの番組が本当にヒットしたのだと認識した瞬間でした。

私たちの番組はゲスト出演者として、一流の映画やTVのスターの興味をひきはじめました。—ジョーン・クロフォード、リップ・トーン、そしてヴィンセント・プライスからベラ・マイルズ、ブロデリック・クロフォード、ソニーとチャーまで。私たちは後に大変有名になる良い役者たちも引き付けました—キャロル・オコーナー（オールインザファミリーの前）、ジョーン・コリンズ（ダイナステイーの前）、そしてウィリアム・シャトナーとレオナ

ルド・ニモイが、スタートレックの前に初めて二人一緒に登場しました。10歳のカート・ラッセルも出演し、二人のミスアメリカ（リー・アン・メリウェザーとメアリー・アン・モブレイ）そして、おまけに、フランケンシュタインの花嫁（エルサ・ランチェスター）も。

第一シーズンに、毎週二人の女性が主人公となるパターンが確率されました。一ひとはイリヤに、そしてもう一人はナポレオンに。私とその「アンクル来た男」であったので、私たちの主演の女優さんに対して、ホストとしての責任があると感じました。それでどちらの女優さんの控え室にもお花を送るように手配していました。しかし誰一人として、私に謝意を示さなかったもので、4話くらい過ぎたところで気にするのをやめました。

ところで、私たちのセットに素敵に売り出し中の女優さんたちが次から次とくると言う事は、おまけの一んっん（咳払い）一恩恵が主役にあると思うかもしれません。それはあなたや、嫉妬深いボーイフレンドーが思うほどそんなに起きはしませんでした。

たとえば、ジュディー・カーン（のちに“ラーフ・イン”で大成功する）が第1シーズンの第3話にゲスト出演しました。私は、それまでは彼女のことを知りませんでした。しかし、彼女はとても面白く、可愛い女性でした、私はいつも愉快で可愛い女性に魅かれていました。

撮影の終わったある夜、ジュディーは私を夕食に誘いました。ちょっと疲れていたもので、「申し訳ないけれども家に帰るよ」と断り、代わりに私が好んで食事する、ベンチュラ大通にある自然食レストラン、アウェアインに行きました。そこにはテーブルに読書用の照明があるので食事をしている間に、雑誌や新聞を読むことが出来たのです。

なんと、私がそこで食事していると、ジュディが入ってきました。私たち二人は笑い、彼女と一緒に食事しようと誘いました。彼女はその時夫のバート・レイノルズ、彼もまたジュディと同じように後にとても成功するのですが、と別居していたと思います。

案の定、バートがやって来て、私たちを見つけました。私たちの方へ突進し、私に面と向かって、ジュディと関係を持っているのではないかと非難するのです。

そのような関係は一切無いと否定しました。「実際のところ、彼女との夕食を断ったくらいだよ。」と私は抗議しました。ジュディが笑い、私も笑いしました。しかしバートは笑いませんでした。

私はレストランのオーナーを呼び、「アル、椅子をもう一つ持ってきてくれないか、友人のバートと一緒に食事をするから。」と頼みました。しかしバートはジュディを捕まえ、急いで外へ連れ出しました。

翌日仕事場で、彼女はその出来事に謝罪しました。もちろん何の謝罪も必要ではありませんでした—多分バートのジュディに対する謝罪は必要だったと思います。

また別のとき、美しい若い女優シャロン・ファレルが「アングル」にゲスト出演しました。ある日、私は彼女のハリウッドの家まで送って行きました。彼女はちょっとだけ中へと、私を招待しました。彼女が飲み物を用意しに席を外したとき、玄関のドアが勢い良く開き、ヴィンス・エドワーズがそこに立っていました。「シャロンは私の恋人だ！」と彼は叫び、シャロンが行った部屋へ突進し、ドアをバタンと閉めました。二人が互いに怒鳴り合いを出したので、私は「君子危うきに近寄らず」とこっそり外へ出ました。

ここ10年、私はハリウッドAリストの若い人たちのパーティーの出席者リストから離れていました。それより以前に招かれていたのは、私のナタリー・ウッドとの56年夏のロマンスによるものでした。

1966年ごろまで、私の殆ど決まったガールフレンドはパトリシア・ケネディ・ローフォード、その時にはピーター・ローフォード前夫人でした。パットの名前は、全ての大人のAリスト招待リストにあり、私は彼女のデート相手兼運転手でした。パットは飲酒運転で家の名声に泥を塗るのを恐れ、自分では運転したくはなかったのです。（1966年当時はまだ、ケネディ家がそのような行為に泥を塗られる可能性があったのです）ですから、私たちが同じ時期にロサンゼルスに居るときは、私がパットをロジャー・エデンズ、ハリウッドの偉大な作曲家でアレンジャーの一人、のサンタモニカの家に迎えに行き、パーティーへ出かけました。

出席者の中にいつも見られたカップルは：カーク・ダグラス夫妻、フレッド・ブリッソン夫妻（ロザリンド・ラッセル）、グレゴリー・ペック夫妻、

ボブ・ブランド夫妻（ジャネット・リー）そして、まだ他にもたくさんいました。その中にはルース・パール—ミルトンの奥さん—確固たる民主党支持者でケネディ家を尊敬する人—が居ました。ミルトンは彼女を「軍曹」とよび、そしてルースが第二次世界大戦時に陸軍婦人部隊に従軍していたのだけれども、ミルティのニックネームは、彼女のその陸軍でのキャリアに対するものよりも、人格に対してつけられたものでした。彼女はとても頼もしい女性で、パットは彼女のことをとても気に入っていました。

かなりの頻繁にですが、夜の終わりにイーデンの家は戻る代わりに、パットをビバリーヒルズにあるパールの家へ送って行くことがありました。ある夜、ラ・カサでパーティーの後にちょっと飲み、そしてレストランオーナー、マニーのゲストとしてその夜のパーティーの締めとして飲んだのち、ナイトキャップのためにパールの家へ行きました。2杯程飲んだ後、パットがゲストルームへ休みに行ったので、ルースが私に泊まるように強く勧めました：「ミルトンは一週間ほど出かけているの—だから彼の部屋で休んだらいいわ、そしてパットが目覚めたら早めのブランチを一緒に食べましょう？」と。

私は同意してパールのキングサイズベッドに大の字に横たわりました。しかし2、3分後、私は目を開き酔ってかすんだ天井に「アンクルマン、主のいない隙にミルトンのベッドで発見」という文字を見ました。

私は飛び起きて、ご婦人たちに謝辞を述べ、急いで立ち去りました。潜在意識の中のもう一人の私の、賢明な判断でした。

ミルトン・パールについても一言あります。彼とミッキー・ルーニーはハリウッドで2大男性会員を保有すると言い張っていました。しかしどちらがチャンピオンなのか？ 伝説によるとミッキーが何年もその栄誉を主張し、公に対決しよう（正しい表現ではありませんが）とミルトンに何度も挑んできました。ミルトンはいつも拒んでいましたが、ついにある日彼は、「十分に勝てるという事を示すためだけにやる。」という条件のもと同意しました。そして、それはこの争いに永遠に終止符を打つのに十分でした。

「アンクル」の人气が、私たちの番組に多くのゲストスターを引き付けたのと同様に、ディビッドと私も名声の高まりの第一段階にあり、他のTV番組へのゲスト出演として沢山招かれました。私は「ジミーの芸術訪問」と言うテーマのジミー・デュランスペシャルに登場し、そこでハムレットの「なんという悪党」の独白部分を朗読し、あの素晴らしいダンサーのルドル

フ・ナレイェフの上に名前が載りました。「レッド・スケルトン・ショー」(2回)、レオ・G・キャロルと一緒に「トゥデェイ」、そしてフィリス・ディラーとABCスペシャルに出演しました。ディビッドと私は別々にNBCの音楽番組「フラバラー」でホストをし、そこで私はハーマン・ハーミッツのヒット曲「ミセスブラウンのお嬢さん」「アイウオナガール(ジャストライクザガール)」そして「セコンドハンドローズ」をバックコーラスに一待ってよーシュープリームスだ、彼女たちにバックコーラスをしてもらって歌いました。いかなる妥当なハカリにかけても、私のキャリアにおいては、低い評価ではありますが、楽しかったですよ！

「アंकル」での日々は、私にとっては多くの俳優が夢見るけれどもも得ることのできない種の経験でした。

最も熱狂的な時期には、ディビッドと私は毎月7万通ものファンレター—クラーク・ゲブルの人気絶頂期よりも多い—を受け取っていました。

「アंकル」の2時間物エピソードはヨーロッパ、アジア、そして南米で劇場映画として公開され、ジェームズ・ボンド映画よりも多い売上を上げました。「アंकル」に基づき23のオリジナル小説(スター・トレック以外のどのTVシリーズよりも多い)が発刊され、最大に売りました。私が国連を訪れたとき、アフリカの族長達がサインを求めました。ディビッドと私がイギリス、スカンジナビア、フィリピン、オーストラリア、香港、そして日本を歴訪したときには、空港から街に現れるまでずっと警官の車に護衛され、TV俳優というよりもロックスターのように扱われました。私がロシアに訪問途中にフィンランドを通ったとき、子供たちが線路沿いに何マイルにも渡って並び、手を振りプレゼントを差し出していました。

ディビッドと私—特にディビッド—はティーンエイジファン雑誌のお気に入りとなりました。私たち二人とも30歳代であったにも関わらず、「16歳」「十代」「タイガービート」の何百万人もの読者の恋の憧れ対象となっていたのです、そして1965、66年のすべてのどの雑誌にも最近の「ディビッド」(苗字は必要ありませんでした)の様子に関する記事が少なくとも一つは取り上げられていました。

それとは対照的に、大人用の雑誌は私たちのゴシップを取り上げがちでした、特に私が独身であることを色々と思案し、伴侶にどういう人物を求めているかを細かく書き立てました。多くの記事が、私が大統領(そうです、アメリカ合衆国大統領です)選挙に出馬する計画を確かなものにするために

「ジャッキー・ケネディ」のような人物を実際に求めていると述べていました。

「アングル」のパロディーやスプーフが激増しました。「おばさんから来た男」という馬鹿げた雑誌が出、ボブ・ホープのスペシャルで似たようなタイトルがありました。コミックスではアーチャーの友人ジャクヘッドが「リバーデールから来た男」に登場し、MGMの「トムとジェリー」では「ハンガーから来たねずみ」と題したのがありました。「アングル」のスプーフは「アダムスファミリー」、「可愛い魔女ジニー」「ブラボー火星人」「それいけスマート」「ディック・バン・ダイク ショー」そして「アベンジャース」にも現れました。私はドリス・デイの「グラスボトムボート」にナポレオン・ソロとしてカメオ出演さえもしました。（ついでながら、私はドリス・デイは私が一緒に仕事をした中で最もセクシーなスターだと思いました。本当に！）

あなたも想像できると思いますが、おもちゃ屋さんは「アングル」関連商品で氾濫しました。残念なことに、ディビッドも私もその恩恵には預かりませんでした。私たちの契約では関連商品利益の5%を受け取るはずでしたが、何らかの理由で私たちも代理人もお金を強くは求めなかったのです。それによりどれだけの利益を失ったかに気づいたのは数年後のことです、特にファンが、変わった「アングル」の土産物などにサインを求めて送ってきたときにです、私たちが以前に見たこともないような物の数々、ランチボックス、ゲーム、野球のボール、エプロンから、どこかの大学が探し出した（どこかは全くわかりませんが）私の実物の2倍もある切り抜きまで。

番組の人気が頂点に達した時には、何百万人ものファンが「アングル」のIDカードを求めました。イギリスではMGMがその注文をこなすために、8人をフルタイムで雇わねばなりませんでした。ある年、副大統領のヒューバート・ハンフリーと私がセントポールのウィンターカーニバルで、二人でホストを務めた時には、副大統領を警護していたシークレット・サービスの一人が私のそばににじり寄り、小声で随員全員にあげるだけの「アングル」のIDカードを持っていないかと訊ねるくらいでした。多くのファンはU.N.が国連の略だと思い、その国際機関に「アングル」の情報が欲しいと手紙を書いたり、諜報員になりたいと申込みました。

何人かのファンは、私達により親密なサービスを申し出ました。オープンカーに乗っている時に、私はよく住所を書いたラベルの付いた家やアパー

トの鍵（そのドアの後ろには私に憧れる少女たちがいるのですが）の砲撃を受けました。第一シーズンの終わりには、私は少女たちの侵入を防ぐために、とても大きな（そして高価な）電気フェンスをマルホランドドライブの私の家、トルマックの周りに張り巡らさなくてはなりませんでした。しかし彼女たちはどうにかして新しい進入路を見つけ、私が朝食をとったり、シャワーを浴びているときに、金切り声や悲鳴をあげたりして、私を驚かせました。ついに私は訪問者をかわすため、動物の声—獰猛な唸りごえ、吠える声、遠吠え—の録音を使おう試みました、しかしそのサウンドシステムの正しい使い方を理解することが出来ず、時々真夜中近くにセットしてしまい、近所の人たちに迷惑をかけてしまいました。（私の息子のキャシディーは、私のことを機械音痴と呼びます）

「アンクル」ファンたちに襲われることは、厄介なことであったことは疑問の余地はありません。そして、私はその全ての瞬間を愛しました。